



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

PARTNERSHIP

Vol.71

2025 年夏号

会長挨拶

宮本 好彦（三恵苑在宅介護支援センター）



現任の市長が謳う「シンカ」に準え、私たちの活動を考察してみました。

社会の状態に合わせ進め変化していく「進化」は、利用者の世帯・生活様式の変化に応じ、また制度等の改定や人手不足対応ICT化などにも対応し、年間を通して行っている研修活動で研鑽を重ねています。

次に「深化」について、実務上必須スキルとなった他法他制度関係者及び保険外サービス者とのチーム編成のため、これまで培ってきたネットワーク作り活動をさらに広め深める必要があります。

そして「真価」。介護保険に不可欠な役割を果たしてきた介護支援専門員

ですが、今後ケアマネジメントを担う役目を介護支援専門員以外でも一部可能にせざるを得なくなった時、それを圧倒的にリードできる相談支援職種者として、或いは地域の社会資源開発のための課題提起者として、その働きが認められることがこれからの私たちの存在価値となるように考えます。

要支援認定者の介護予防マネジメント策の整理など、保険者や他団体との協働の下行わなければならない直近の課題に取組みつつ、ケアマネジメントの専門家と位置付けられたケアマネジャーとしてさらなるシンカを遂げてまいります。

今年度の通常総会も、清水市長並びに清水介護保険サービス事業者連絡協議会代表幹事はじめ、山崎福祉局長、百澤介護保険課長、白谷いきいき長寿推進課長及び各区の高齢介護課長に臨席を賜り、盛会のうちに終えましたことご報告申し上げます。

さいたま市介護支援専門員協会

「令和7年度 通常総会」

開催日時 令和7年5月17日（土） 13時45分～14時50分
開催場所 さいたま共済会館 601号室（第1ホール）



5月17日（土）さいたま市共済会館において「令和7年度さいたま市介護支援専門員協会通常総会」が開催された。

現在の会員総数は、161名、今年度の通常総会は、出席者と委任状を含め134名で、会則第20条第1項の会員過半数の同意を満たしており、総会は成立した。

来賓には、さいたま市長 清水勇人様をはじめ、行政から多数のご出席をいただき、関係諸団体より、さいたま市介護保険サービス事業者連絡協議会代表 幹事 清水政和様にご出席をいただきました。

また、清水市長より、ご祝辞をいただきました。

さいたま市介護支援専門員協会の皆様には、日頃から介護保険事業の適正な運営にご理解とご協力をいただき御礼申し上げます。

今年度は、第9期高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画2年目です。本市の高齢者人口は、令和7年4月1日現在、約31万5千人、昨年より2千人近く増加し、高齢化率は23%、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年は、高齢者人口が40万人を超え、高齢化率は、30%まで急激に上昇することが見込まれています。そのため本市では、介護予防の推進として、健康寿命の延伸、介護状態の重度化の抑制を図り、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていける環境作りに取り組んでいます。

このような取り組みを進めるには、ケアマネジャーの皆様のご理解ご協力が必要不可欠で、連携をより一層深めたいと考えています。

また近年は物価高騰に合わせ大企業を中心に賃上げが進んでいます。介護業界については、介護報酬が法定価格として定められているため、待遇改善が進みにくい状況です。このため昨年度と一昨年度、ケアマネジャーを含めた介護職員の処遇改善に向けた取り組みを進めるよう国に対し、さいたま市から

も要望しました。

介護を取り巻く環境は大きく変化しており、介護人材の確保は元より、米の価格に象徴される食材費、また光熱費の価格高騰も大変深刻な課題です。国では、2027年の介護保険制度改正に向けた議論が進んでおり、介護支援専門員の役割、また業務負担の軽減が重要なテーマとなっています。

さいたま市としても皆様が安心していただける環境を整えるため、引き続き本市独自の施策を検討推進していきます。」と述べられました。

議事の進行は、宮本会長が議長となり、以下の3議案について審議を行った。

議案第1号 令和6年度事業報告・収支決算報告

議案第2号 令和7年度役員選出

議案第3号 令和7年度事業計画・収支予算

上程された3議案は、滞りなく承認可決し、会長には、宮本好彦氏が前年度に引き続き選任された。

さいたま市介護支援専門員協会「ロゴマーク」（広報誌表紙に掲載）は、さいたま市各区の十色を使用し、「人が支え合い、皆で力を合わせ色とりどりの花を咲かせよう」「ネットワークの和」の意味を込めている。思いを確かめ合い令和7年度の幕が開けた。

令和7年度 第1回 全体研修会

テーマ「刑事力コミュニケーション」～小さな気づきを見つける習慣作り～

講師 テレビコメンテーター（元埼玉県警・刑事）

一般社団法人スクールポリス 理事 佐々木成三氏

開催日時 令和7年5月17日（土）15時00分～16時30分

開催場所 さいたま共済会館第1ホール

今年度第1回全体研修会は、佐々木成三氏による、介護現場における犯罪・虐待防止のための実践的アプローチと、生成AI時代に必要な情報リテラシーについて解説。さらに小さな気づきやコミュニケーションの重要性についてご講義をいただいた。

はじめに、佐々木氏の経歴をご紹介。現在、テレビのニュースや数多くの情報番組に出演されており、ご存知の方も多いのではないだろうか。2023年テレビ出演ランキング第2位。また、約22年間の警察人生の内、捜査一課ではデジタル捜査班長としてサイバー犯罪捜査を担当した。当時の経験から、犯罪や虐待の多くは事前の教育や情報モラルの啓発で防げると考え、学校等での情報モラル教育に取り組んでいる。

さらに、介護現場での経験もあり、デイサービス併設の老人ホームの立ち上げに携わった経験がある。

1. 刑事（デカ）力とは

刑事時代から大切にしていたのは観察する観の「直観力」であり、これは過去の捜査結果や知識経験に基づいて判断する力である。間違った推理や判断を避けるために重要。

〈直観と直感の違い〉

「ちよっかん」には「感じる感」と「観察する観」の2種類があり、観察する観の「直観力」が刑事（デカ力）とされる。

①直感…その場の雰囲気や感覚で受け取る

②直観…過去の経験や知識に基づいて読み解く

〈デカ力（刑事力）を鍛える〉

デカ力（刑事力）とは、観察力や直観力を鍛えることで、見えないものに気づき、先を読む想像力やリスク管理能力を養う力である。介護現場でも必要な力といえる。

①見えないものに気づく力

②先を読む想像力やリスク管理能力

③コミュニケーション能力の向上

〈先入観を持たずに疑問を持つ姿勢〉

自分の知っていることを疑い、先入観を持たずに物事を観察し、疑問を持つことが重要。

①知っているつもりにならず、常に疑問を持つ

②先入観を排除して観察する

③自分の知識や認識に自信が持てない場合は、実際に確認したり他者に説明してもらうことで理解を深める

介護現場や日常生活において、思い込みや曖昧な

記憶で判断すると誤った対応や運営につながるため、正しい情報を自分の目で確かめる習慣が必要である。

2. 刑事力とコミュニケーションの重要性

刑事力とは、現場での状況判断や問題解決能力を指し、コミュニケーション能力と合わせて、事件や介護現場など多様な現場で重要視される能力である。

①現場での小さな異変や気づきを見逃さない習慣が重要

②コミュニケーションを通じて情報を収集し、適切な対応を行う

③経験や知識の蓄積が刑事力の向上につながる事件や事故が起きる前に小さな異変に気づき、適切なアプローチを取ることが犯罪や虐待の防止につながる。介護施設での勤務経験から、日々の利用者の様子や環境の変化に敏感になり、小さな異変を見逃さずに対応することで、大きな事故や虐待を未然に防ぐことができると実感した。

〈介護施設で取り組んだ対策〉

①介護現場での観察力を高めるため、日々のコミュニケーションや記録を徹底する

②異変を感じた場合は、すぐにチームで共有し、対応策を検討する

3. 高齢者虐待事案の認知と警察の対応

警察が高齢者虐待事案を認知した際の動きや、事件化の基準、捜査の流れについて詳細に説明。

警察は高齢者虐待事案を認知した場合、まず遺体の状況や傷の位置・新旧を確認し、説明と矛盾があれば、事件として捜査を開始する。社会的反響や世論も考慮し、積極的に事件化するスタイルを取って

いる。

〈介護施設内での犯罪の前兆〉

- ① 利用者の不自然な傷や痣の増加
- ② 職員の暴言や特定利用者への嫌悪感
- ③ 備品や現金の紛失
- ④ 職員の金銭トラブルや消費癖

介護施設内で発生する犯罪には必ず前兆があり、小さな事案を見逃さずに組織的に対応することが大きな事件の防止につながる。

4. 高齢者虐待事件の報道と社会的影響

高齢者虐待事件が発生し逮捕者が出ると、必ずメディアが報道し、社会的反響が大きい。真面目に働く職員が大多数であるにもかかわらず、連日の報道により残された職員の信頼回復や労働力への影響が大きい。

- ① ストレスや鬱憤の発散
 - ② 利用者が言うことを聞かないことへの苛立ち
 - ③ 同僚への嫌悪感
 - ④ 褒められたいという承認欲求
- 容疑者の動機は多様であり、必ずしも計画的なものではなく、感情的・衝動的なものが多い。褒められたいがために自作自演で怪我をさせるなど、異質な動機も存在する。

5. 感情的な衝動がもたらす犯罪と社会的影響

一瞬の感情的な行動が逮捕や社会的制裁、家族への影響など、取り返しのつかない結果をもたらす。

- ① 暴力や窃盗などの犯罪行動は、感情的な衝動によるものが多い
- ② 逮捕後の取り調べで、ほとんどの容疑者が後悔

しないと述べている

③ 社会的制裁や家族への影響も大きい

感情的な衝動による犯罪は、本人だけでなく家族や職場にも甚大な影響を及ぼすため、職員には、冷静な判断と自己抑制の重要性を教育する必要がある。

6. 職場環境改善と犯罪抑止

職員の人格と職場環境の両方が犯罪行動に影響を与える。特に、環境要因を小さくすることで犯罪抑止が可能であるとされる。

- ① 人格に問題がある場合でも、環境の問題を小さくすることで犯罪を防げる
 - ② 経営者や施設長は環境改善に注力すべき
- 人手不足などで人格に問題がある人材を選ばざるを得ない場合でも、職場環境を整えることで犯罪リスクを低減できる。人間関係や現場環境の改善が重要。

〈チームワークと共通目標の共有〉

介護現場では、職員が同じ景色（目標や課題）を共有することで、より良いチームワークが生まれる。共通課題や目標を繰り返し共有することが重要。

- ① 定期的に共通課題や目標を確認・共有する
- ② 情報共有の場を設ける

もし職員間で目標や課題の認識にズレがある場合、繰り返し話し合いを行い、共通認識を持つようにする。

〈同調圧力と協調性の違い〉

同調圧力は、集団の中で周囲の意見や行動に合わせるように無意識に強制される力であり、間違ったことでも正しいと信じてしまう危険性がある。一方、協調性は組織の目的や目標に向かって自発的に協力

し合う姿勢であり、傾聴や多様な意見を受け入れることが重要である。

- ① 同調圧力は間違いに気づかず集団全体が誤った方向に進む原因となる
- ② 同調圧力は上からの指示や空気を読むことによって生じやすい
- ③ 協調性は組織の目標に向かって自発的に協力し、誰の意見も傾聴できる環境が大切
- ④ 協調性と同調圧力を混同しないように注意する

7. プライドの本質と仕事への向き合い方

仕事におけるプライドとは、自己の評価や感情ではなく、組織や社会の目標達成に向けて全力を尽くす姿勢である。小さなプライドにこだわるのではなく、大きな目標に向かって努力することが重要。

- ① プライドは自己の感情や評価ではなく、仕事の目標達成に向ける
- ② 小さなプライドにこだわると、成長や成果を妨げる
- ③ 大きな目標に向かって努力することで、困難や批判にも動じない
- ④ 部下や同僚が小さなプライドにこだわっている場合、仕事の本質や目的を再確認させる

8. 情報判断力の重要性和若手育成

現代社会では情報判断力が極めて重要であり、特に若手職員は知識や経験が不足しているため、現場のベテランが知識・経験を伝えることが大切。

- ① 情報判断力は日々の業務に不可欠
- ② 若手職員は知識・経験が不足しているため指導が必要

③ アナログな現場経験とデジタルの融合が重要
介護現場では正解がないことが多く、若手職員は常に答えを求めている。ベテラン職員が自らの知識や経験を伝えることで、若手の情報判断力を高めることができる。デジタル社会においても、アナログな現場経験は不可欠である。

9. 生成AIと真実を見抜く力

生成AIの普及により、情報の真偽を見抜く力（リテラシー）がますます重要になっている。AIの仕組みや限界を理解し、詐欺や誤情報に惑わされない力が求められる。

① 生成AIはあらゆる統計データを学習しているが万能ではない

② AIの予測や結果を鵜呑みにせず、冷静に根拠を考えることが重要

③ 詐欺や誤情報に騙されないためには、過去の知識や経験を活かす必要がある

10. AIと介護の関係性

AI技術は進歩しても、介護の本質的な部分（気遣いやコミュニケーション）は人間にしかできない。AIは話し相手にはなれるかもしれないが、介護そのものはなくならない。AI技術の進歩を認めつつも人間の役割は重要。

① AIができることとできないことを見極める

② 介護の本質は人間にしかできない部分が多い

③ AI技術を活用しつつ、人間の役割を大切に
する

今後、AI導入によって業務が変化した場合、人間にしかできない部分を再確認し、役割分担を見直

すことが必要。AIと人間の役割分担を明確にすることが大切である。

11. 編集後記

以前から、TV番組で佐々木氏の明解な解説を観ていたため、今回の講師が佐々木成三氏と聞き、研修当日を楽しみにしていた。当日は講話のみならず、AIで作成したトランプのトリックを体感したり、コンビニエンスストアの看板を題材に認識の曖昧さを実感したり、あつという間に終了時間となった。仕事の枠を超え、私達一人ひとりの日常生活に関わるとても興味深い内容だった。また、捜査一課で培った経験と内に秘めた使命感や情熱に触れ貴重な機会だった。

令和7年度 第1回 桜区ケアマネサロン

開催日時 令和7年6月13日（金） 14時00分～15時35分

開催場所 桜区役所4階大会議室

今回、桜区役所会議室にて、桜区ケアマネサロンが開催され、桜区周辺地域の居宅ケアマネ、地域包括支援センター、桜区福祉課のケースワーカー、桜区障害支援センター、さいたま市社会福祉協議会など、72名の様々な職種が参加し、大変盛況でした。

開会の挨拶で、桜区役所健康福祉部 福祉課 斎藤課長より、地域福祉の重要性と今後の展開などのご説明と、今回のサロンを通じてお互いの顔を知るにことによる関係性作りに期待したいと、ご挨拶をいただきました。



その後、福祉まるごと相談窓口、さいたま市社会福祉協議会桜区事務所 コミュニティソーシャルワーカー、各包括、当協会よりご挨拶をいただきました。

次に、当協会の多田研修ネットワーク推進副委員長より、暗黙知（言葉になっていない知識、無自覚に使っている考え）の説明をいただき、自身の職種では当たり前と思っていることが、他職種の人間にとっては普通の考えではないことがある等の説明と、PCAGIP法とコーチングを用いたグループワークの進め方・グラドルールの説明があり、その後、福祉課のケースワーカーや障害者生活支援センター



より提供いただいた5事例を使用し、グループワークを行いました。

グループワークでは、各専門性を用いた質問や意見、提案などがあり、事例提供者の方からも、「非常に参考になった」「ご意見をいただいたことを実践してみたい」「施設入所しかないと思い、良い施設はどこか?というスタンスで事例提供したが、在宅でも生活できると自分の考えが変わった」といった感想を述べられました。

他職種での事例検討を行ったことにより、福祉課や障害者生活支援センターの悩みや苦勞を共感することができ、有意義なサロンとなりました。

令和7年度 さいたま市介護支援専門員協会 【研修計画】

全体研修会	研修名	方法	定員	時間	内容
5月17日(土)	第1回 介護保険制度研修	会場：さいたま共済会館	100名	2時間	『刑事コミュニケーション』～小さな気づきを見つける習慣作り～ 講師 佐々木成三氏（テレビコメンテーター・元刑事）
7月頃	第2回 スキルアップ研修	会場	50名	2時間	
10月頃	第3回 多職種連携	会場	50名	2時間	
1月頃	第4回 事例検討会	会場	50名	2時間	
3月頃	第5回 施設ケアマネ研修 ケアマネジメント研修	会場	30名	2時間	峯尾先生による施設CM向け研修

各区サロン活動	サロン名	方法	定員	時間	内容
8月・12月・3月	よろず相談会	ZOOMでのリモート方式 又は会場研修	20名程度	1時間	各区で企画提案の交流会、相談会
6月・11月	施設ケアマネサロン	会場	20名程度	2時間	施設ケアマネの交流、相談会 事例検討会
6月13日・11月	桜区ケアマネサロン	会場：桜区役所	50名程度	2時間	連携・学習会

ちょっと coffee break

会員 A

AI? アナログの私には未知の世界で、さらに最近では生成AIという言葉まで…、だんだん時代に取り残されていると感じる今日この頃です…。

さて、この生成AI、従来のAIと違い膨大なデータから学習し、新たなコンテンツを自動生成する技術で、種類もたくさんあります。「会話」「要約」「記事作成」「画像生成」「動画生成」「音楽生成」「プログラミングコード生成」や他にも「スケジュール管理」などもあります。今まで制作に相当の時間がかかっていたものが、あっという間にできてしまい、効率化と大幅な時間短縮が可能となるようです。

そこで今回の記事で、少しだけAIを使ってみようと思い、このコーナーのテーマ「coffee break」について、「ケアマネジャーのcoffee breakとは?」と質問してみました。

ケアマネジャーのcoffee breakとは、仕事の合間に一息ついてリフレッシュするための短い休憩時間のことです。単にコーヒーを飲む時間というだけでなく、心身の疲れをほぐし、集中力や効率を回復させる大切な時間として、多忙な日々の中で重要な役割を持っています。

ケアマネジャーの仕事は、利用者さんやご家族との

相談、サービス調整、関係機関との調整、書類作成など、気を遣うことが多い専門職です。コーヒーやお茶を飲みながら少し気持ちが落ち着くことで、頭と心をリセットできます。

また、短時間でも効果があり、忙しい業務の合間でも、5～10分程度の身近なブレイクで、集中力や作業効率が向上することがあります。

まとめとして、ケアマネジャーのcoffee breakとは、ただの休憩時間ではなく、利用者のケアをよりよいものにするための「自分のケア」とも言えます。小さな一息が、長く続けられる支援の力になります。

「なるほど」と思うところもあり、要点が整理され結論まで答えてくれます。AIを実際に利用してみて、数秒で返ってくるその答えの早さに驚かされます。

また、質問の仕方や文章表現によって答えが変わってきますので、AIへの質問力が問われてそうです。

これからは、アナログの良さを活かしつつ、AIなどのデジタルも活用してみようと思います。(本当はネタがなく困っていたので、AIで楽をしようと思いました(^^))

今回の内容を読んで、「coffee break (一息)」できなかったらすみません(;;)

あとがき

令和7年度初回の広報誌は「年間事業計画」「役員名簿」を掲載させていただきました。

また、広報誌の「ちょっと coffee break」コーナーですが、今年度も引き続き掲載していきますので、あなたの番がきたらよろしくお願いします。

厳しい暑さが続いておりますので、くれぐれも熱中症にならないようご自愛下さい。

さいたま市介護支援専門員協会 会員随時募集中！

さいたま市介護支援専門員協会は、介護支援専門員の資質向上とネットワーク化を図り、介護支援業務の円滑な推進に資することを目的に活動しています。

入会をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

事務局

〒331-0074 埼玉県さいたま市西区宝来 86-1

敬寿園宝来ホーム

連絡先 TEL 080-4750-4400 FAX 048-620-0601

ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>

さいたま市介護支援専門員協会

検索